

武州 入間川 プロジェクト

武州・入間川 プロジェクト とは

入間川流域で環境保全活動をされている市民団体等に対し、武州ガス・荒川上流河川事務所・埼玉県生態系保護協会が主体となりその活動を支援する助成事業です。

【趣旨】 入間川流域における地域社会の活性化を目指し、市民団体等が行う活動に対し費用助成を行います。

【助成対象】 市民団体、学校等の非営利団体による公益的な活動

【助成範囲】 入間川流域の8市8町1村
川越市、狭山市、入間市、鶴ヶ島市、日高市、川島町、坂戸市、鳩山町、毛呂山町、飯能市、東松山市、嵐山町、小川町、ときがわ町、越生町、寄居町、東秩父村での活動

【対象活動】 ① 原則として入間川流域（入間川、越辺川等）の河川内をフィールドとして行う河川環境の保全・再生・創出に貢献する活動等（河川清掃のみを目的とした活動等は対象外）
② 上記活動などに関するセミナー等の実施、河川環境・防災に関する学習活動

武州ガス と 入間川

武州ガスの創始者原次郎氏は、入間川の治水に、大きな功績を残しました。原次郎氏は、明治28年(1895年)埼玉県入間郡三芳野村紺屋(現在の坂戸市)に生まれ、水害の常習地帯である貧しい村の惨状を見て育ち、「治水を図り、貧困をなくすこと」を強く心に誓ったと言われています。昭和15年(1940年)には入間川水系改修期成同盟会会長として、治水に情熱を傾けました。そして昭和17年(1942年)には、この熱意が実を結び、入間川・越辺川・小群川が国の直轄河川に指定され、入間川水系の三川分流工事の実現など治水に尽力されました。



原次郎氏

武州ガスは、入間川流域を中心とした地域に密着した企業として、地域を支えるとともに、社会貢献活動に積極的に参加しています。入間川流域の次の世代に伝えていくため、先人の遺志を継ぎ、今回のプロジェクトに至りました。

入間川流域



武州・入間川プロジェクトでは、平成22年のプロジェクト開始以来、10年間で累計124団体が助成を受けて活動しています。

助成団体の主な活動紹介

[埼玉県立いずみ高等学校]



外来種の駆除や在来草本植物の植え付け、サクラソウやノウルシに代表される貴重な植物の保護活動、三ツ又沼に自生する在来植物の発芽率調査などに取り組みました。

[狭山市立入間川小学校]



入間川の河川敷にて、草花の様子、岩石の観察、川に生息する生きもの観察や季節探しを行い、観察の帰りにはゴミを拾って帰るなど自然を愛する心を培っています。

[高麗川ふるさとの会]



ゴミ拾いや草刈り作業、水路の水の浄化をすすめる礫を並べる作業や水路に茂っている水草の除去、ゴミ受けネットの設置を行いました。

[NPO法人荒川の自然を守る会]



外来種の駆除、より良い自然環境を守ると同時に育てる活動として、地域の在来野草の種子からの育苗と移植活動に力を入れました。

令和元年度活動報告展の開催

武州ガス(株)展示スペース(川越アトレ)において、令和元年度助成団体による活動報告展を開催しました。



※これまでの助成活動についてはこちらをご参照下さい。
→ https://www.ktr.mlit.go.jp/arajo/arajo_index049.html

